



Annual Report

2017.04-2018.03

WaterAid JAPAN

A world where everyone,
everywhere has clean water,
sanitation and hygiene.

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン 年次報告書 2017.04-2018.03

- 1 すべての人々が清潔な水を利用し、衛生的な環境で生活できるように
- 3 水と衛生
- 5 ウォーターエイドとは
- 7 ウォーターエイドの活動国
- 9 ウォーターエイドの水・衛生プロジェクト① 東ティモール
- 11 ウォーターエイドの水・衛生プロジェクト② インド
- 13 ウォーターエイドの水・衛生プロジェクト③ ネパール
- 15 ウォーターエイドのグローバルキャンペーン ヘルシースタート
- 17 日本の活動 情報発信
- 19 日本の活動 アドボカシー
- 20 企業との連携
- 21 2017 年度会計報告
- 22 ウォーターエイドジャパンについて

すべての人々が清潔な水を利用し、 衛生的な環境で生活できるように

アフリカ西部に位置するシエラレオネ トンボフワン村。
都市部から遠く離れたこの村には給水設備やトイレがなく、
住民は、不衛生な水たまりから水をくみ、野外で用を足していました。

2017年、ウォーターエイドは、この村で水・衛生プロジェクトを実施。
住民たちが主体となって、各世帯のトイレや村の井戸を建設し、
この村に清潔な水と衛生環境が届けました。

「もうこれで病気に悩まされたり子供を失ったりすることがないんだ」
井戸の開通を祝う日、住民たちには笑顔があふれていました。

清潔な水、衛生的なトイレ、適切な衛生習慣 —
この3つが世界中のすべての人にとってあたりまえのものになるように、
ウォーターエイドは活動が続けていきます。



2017年5月

WaterAid/ Joey Lawrence



WaterAid/ Joey Lawrence

ビントウさん

「私たちには選択肢がないので、この水を飲むしかありません。この水のせいで私たち家族、特に4歳の息子サファはしょっちゅう腹痛で苦しんでいます。雨期になると、人間や動物の排泄物がこの水に流れ込んでますます不衛生です。」



2017年10月

WaterAid/ Kokoyeh



2017年12月

WaterAid



2017年12月

WaterAid/ Sumorie



2018年1月

WaterAid/ Nana Kofi Acquah

マトウさん (40歳)

「ここに水があるのは皆さんのおかげです。」

私は村の女性たちと一緒に、井戸建設の資材となる石や砂を運んだり、井戸を設置する職人さんのための食事を作ったりして、井戸の建設を手伝ったんですよ。

水があることで、もう不衛生な水を飲んで腹痛に苦しむこともなくなるし、子供たちが森のなかを歩いて水くみに行き、ヘビなどの危険な動物に襲われることもなくなります。生活が大きく変わるんです。

私たちはこの井戸を大切に使うために、井戸使用のルールを決めたんですよ。井戸を清潔に保つために、泥などで汚れた服で立ち入らない、女性は髪の毛をしばるなどです。」



2018年1月

WaterAid/ Nana Kofi Acquah



2018年1月

WaterAid/ Nana Kofi Acquah

水と衛生



水と衛生の危機

多くの皆さまが継続的に世界の水・衛生問題に関心を向けてくださったことによって、清潔な水とトイレを利用できる人口は大きく増加しました。

- 1990年以降、26億人が清潔な飲料水を利用できるようになりました。
- 1990年以降、21億人が適切なトイレを利用できるようになりました。

(WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme (JMP) Report 2015)

しかし、人口増加や都市化、気候変動といったさまざまな要因から、現在も多くの人々が清潔な飲料水を得ることができず、不衛生な環境で生活しています。

- 8億4,400万人が清潔な水を利用できません。
- 23億人が適切なトイレを利用できません。

(WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme (JMP) Report 2017)

水・衛生危機の要因

清潔な水やトイレを利用できる人口を増やすため、水道事業者、国際機関、NGOなど、さまざまな団体が世界中で活動しています。それでもなかなかすべての人々が利用できるようにならないのには、以下のような理由があります。

- 清潔な水と衛生的なトイレの重要性を政府が理解していないこと。特に、水・衛生が教育や保健、日々の収入にどれほど大きく影響しているかについての認識が不足しているため、結果として水・衛生が多くの政府にとって取り組むべき優先課題になっていないこと。
- 給水サービスやトイレの設置サービスがあったとしても、多くの場合、貧困世帯が利用できる金額設定になっていないこと。
- 物理的に給水サービスが届きにくい場所——例えば、都市部から遠く離れた村、都市部のスラム、紛争や自然災害によってインフラが破壊された地域などでは、給水設備そのものが設置されづらい状況にあること。
- 障害がある、民族が異なる、カーストが低いといった理由で、地域のなかで差別を受けている人々がいたり、取り残されているコミュニティがあること。

パプアニューギニアの首都では収入の半分以上が水に消える

パプアニューギニアの首都ポートモレスビー郊外に住むエリザベスさんは、屋台で軽食を売って生計を立てています。順調に売れた週の売り上げは約100キナ(3353円)、1日あたり14.3キナ(479円)です。洗濯や体を洗う際には、家の近くの清潔とは言いがたい井戸水を使っており、飲用・料理用の水は「ウォーターボーイ」と呼ばれる水宅配サービスから購入しています。その購入価格は50リットル7.5キナ(252円)、つまり1日の収入の53%を、飲用・料理用の水に使っている計算になります。

* 為替レートは2018年6月24日現在



WaterAid/Tom Greenwood

「すべての人に水・衛生を」に世界が合意 ～持続可能な開発目標(SDGs)～

2015年、国連加盟国の首脳が参加した「国連持続可能な開発サミット」において「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」が採択され、貧困や飢餓、保健、気候変動などに関する17の目標を2030年までに達成することに世界が合意しました。



WaterAid/Ernest Randriamalala

目標6は「すべての人々の水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」。貧困をなくし、持続可能な開発を実現するには水と衛生が不可欠であるとの認識のもと、水・衛生へのユニバーサルアクセスが世界全体で実現すべき目標として認められました。

持続可能な開発の基礎となる水・衛生

水・衛生の確保には、大きな波及効果があります。誰もが水・衛生を利用できるようになったコミュニティでは、人々が健康に、公平で生産的な暮らしを送ることができます。水・衛生は目標6だけで完結するのではなく、貧困や飢餓、保健、格差といったさまざまな問題を解決するためにも、極めて重要な意味を持っています。目標6を実現することで、他にも多くの目標を実現に近づけることができます。



貧困をなくそう

清潔な水がなく衛生状態の悪い環境では、長時間の水くみや病気の治療代などの負担が増え、貧困から抜け出すことが困難になります。2015年にトイレの不備が世界経済に与えた損失は22兆円*。清潔な水と衛生環境があれば、この損失をなくすことができます。人々は、体調不良で働けなかったり水くみに費やしたりしていた時間を、野菜作りや現金収入を得られる仕事に充てることが可能になります。

* 株式会社 LIXIL グループ「衛生環境の未整備による社会経済的損失の分析」



飢餓をゼロに

低栄養のうち50%は、不衛生な水と衛生環境による慢性的な下痢や寄生虫、感染症が原因です。特に乳幼児期に繰り返し下痢にかかる、その後の成長が阻害されることがわかっています。また、衛生習慣を理解していないために、母親が手を洗わずに素手で子供の口に食べ物を入れたり、不衛生な場所に食べ物やミルクを保管したりすることもあります。水と衛生環境、衛生習慣は、子供の栄養状態の改善に不可欠です。



すべての人に健康と福祉を

アフリカの保健医療施設の42%では清潔な水を使うことができず、質の高い医療サービスを提供できずにいます。そのような病院で出産した場合、女性と新生児の命は危険にさらされることになります。保健医療施設で清潔な水を確保することは、安全な出産のためにも、病気の感染を広げないためにも、そして人々が安心して治療を受けるためにも不可欠です。また、水・衛生が確保できれば、コレラやトラコーマ(目の感染症)などの病気にかかるリスクも減少します。



質の高い教育をみんなに

世界の31%の学校では、清潔な水を利用することができません。子供たちは、しょっちゅう病気にかかる、のどが渇いても水が飲めないといった環境で勉強するしかありません。学校に男女別のトイレがない場合、女の子たちは月経期間中に学校を休まざるをえません。次第に授業についていけなくなって中退することもあります。学校に水とトイレがあれば、子供たちは安心して勉強を続けることができ、将来の夢の実現に近づくことができます。



ジェンダー平等を実現しよう

家の近くで水が手に入らない地域では、多くの場合、水くみに行くのは女性と女の子の役目です。そのために女性や女の子たちは、教育を受ける機会や収入を得られる仕事の機会を失っています。適切なトイレがなく野外で排泄せざるをえない女性たちは、その道中で嫌がらせや暴力を受ける危険にさらされています。水・衛生があれば、女性と女の子たちが安心して暮らすことができ、教育を受けて社会で力を発揮することが可能になります。



住み続けられるまちづくりを

世界の都市人口は急増しており、2050年までに人口の70%が都市部に住むようになると予測されています。特に開発途上国の都市は急速に拡大しており、そのなかでも就労の機会を求めて都市部に移転する貧困層は、給水設備やトイレが整備されておらず、頻繁にコレラなどの病気が流行するスラムや都市周辺地域に住むしかありません。都市部の水・衛生状況に優先的に取り組むことは、持続可能な都市づくりに不可欠です。

ウォーターエイドについて



ビジョン

すべての人が、すべての場所で、清潔な水とトイレを利用し、衛生習慣を実践している世界。国際 NGO のウォーターエイドは、確固たる決意をもって、このビジョンを2030年までに実現することを目指します。

ミッション

清潔な水、衛生的なトイレ、正しい衛生習慣。健康で尊厳ある暮らしに欠かせないこの3つを届けることで、ウォーターエイドは、世界で最も貧しく、社会的に取り残されている人々の暮らしを改善していきます。

これまでの成果

2017年4月～2018年3月、ウォーターエイドは下記のとおり多くの人々に清潔な水と衛生環境を届けました。



家庭
32万人
学校・保健医療施設
110万人
に清潔な水を
届けました



家庭
40万人
学校・保健医療施設
100万人
に衛生的なトイレ
を届けました



家庭
140万人
学校・保健医療施設
115万人
が衛生習慣を
身につけました

歴史

1981年	イギリスの水道局が中心となって設立
1991年	英国チャールズ皇太子が会長に就任
1995年	ストックホルムウォータープライズ受賞
2003年	イギリスにおいてチャリティオブザイヤー受賞
2004年	アメリカ、オーストラリアにウォーターエイド設立
2009年	スウェーデンにウォーターエイド設立
2013年	カナダにウォーターエイド設立
	ウォーターエイドジャパン設立

コミュニティに水・衛生が届くまで

ウォーターエイドによる取り組みの一例をご紹介します。

1

調査・分析

地質、気候、水源、年間を通した水源の水量や汚染度の変化、住民の生活、配慮を要する障害者や高齢者がいる世帯のことなど、住民や現地パートナーと連携しながら多岐にわたる調査・分析を行います。



2

解決方法の検討

調査・分析を踏まえて、コミュニティの実情に最も適した解決方法を検討します。住民参加のワークショップを開催し、どの場所にどのような給水設備を何基作るのか、その資金をどのように調達するのかといったことを、住民自らが話し合っ計画を立てることもあります。



3

最適な解決方法の検討・実施

住民や現地パートナーと一緒に、コミュニティに最適な解決方法を検討・実施します。給水設備を設置する場合には、地質、気候、水源などの条件を踏まえたうえで、その地域に合った、維持管理しやすい技術を選択します。



4

修理工の育成

解決方法は給水設備を新設するだけではありません。給水設備が故障しても直せないことが課題となっている地域では、修理工を育成します。水道が近くにあるにもかかわらず、スラムに住んでいるために使用する権利がないという場合には、住民による政府への交渉をサポートすることもあります。



5

維持管理などのしくみを構築

住民が持続的に清潔な水を利用できるよう、住民と連携しながら、維持管理や水道料金徴収のしくみを構築したり、設備の修理に必要な部品の流通網を整備します。水道事業者や行政を対象として、「地域の住民が清潔な水を利用できるようにすることは自分たちの責任である」という認識を深めるための会合・研修を行うこともあります。



6

プロジェクト終了

プロジェクト終了時には、その手法と成果を文書化し、現地政府や国際機関、NGOと共有します。成果の上がっているプロジェクトの手法を現地政府が展開し、同様の課題を持つ他の地域でも実施することで、より多くの人々に清潔な水と衛生環境を届けることが可能になる、とウォーターエイドは考えています。



*これはウォーターエイドが実施する水・衛生プロジェクトの一例です。コミュニティの状況によってプロジェクトの内容はさまざまです。

ウォーターエイドの活動国



● メンバー国

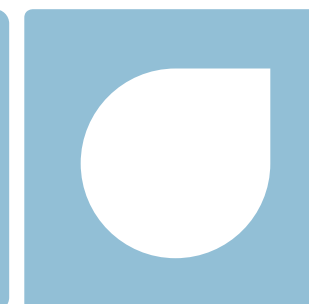
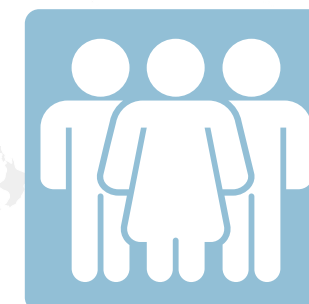
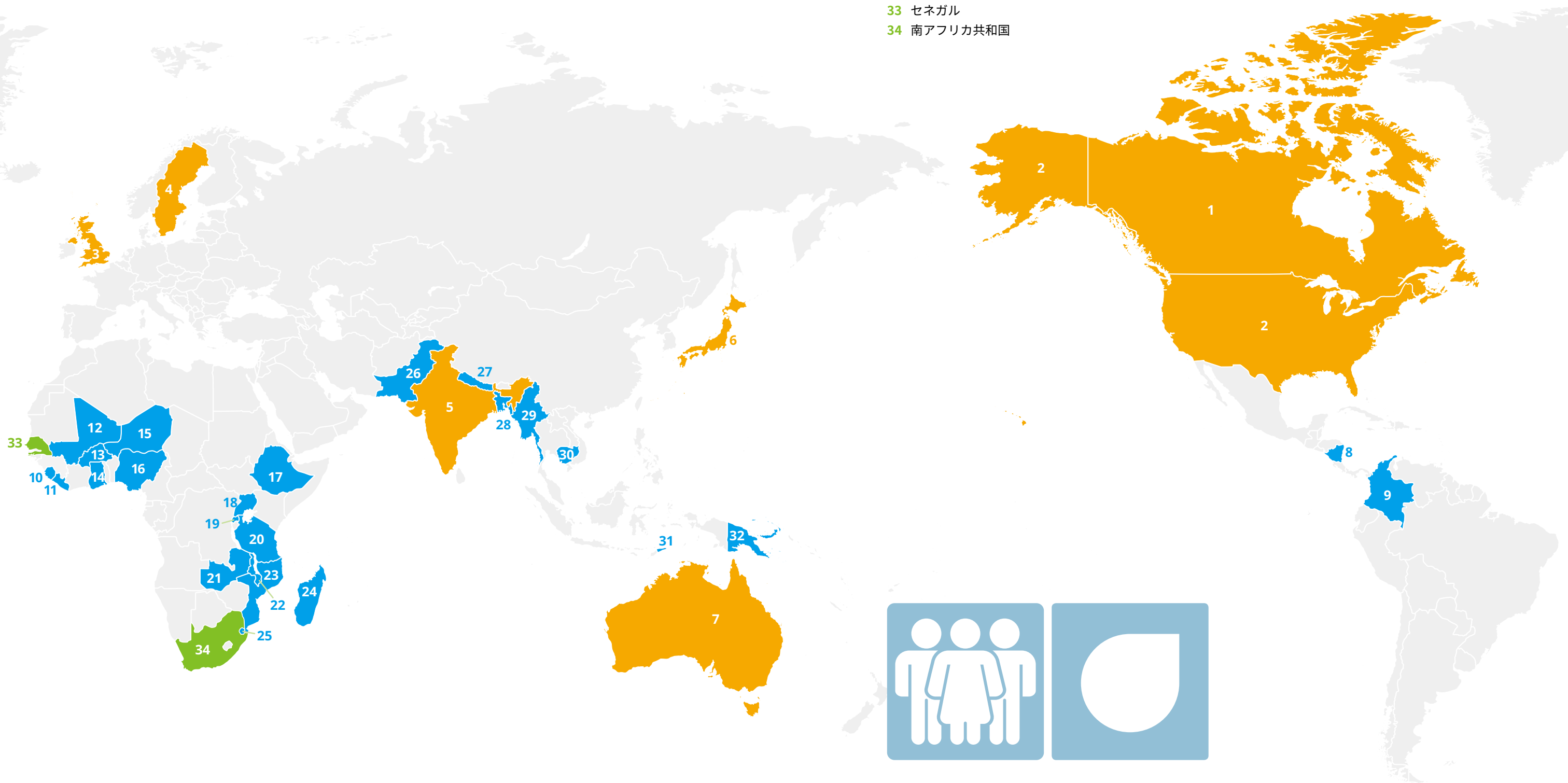
- 1 カナダ
- 2 アメリカ
- 3 イギリス
- 4 スウェーデン
- 5 インド
- 6 日本
- 7 オーストラリア

● 地域事務所

- 33 セネガル
- 34 南アフリカ共和国

● プログラム実施国

- 8 ニカラグア
- 9 コロンビア
- 10 シエラレオネ
- 11 リベリア
- 12 マリ
- 13 ブルキナファソ
- 14 ガーナ
- 15 ニジェール
- 16 ナイジェリア
- 17 エチオピア
- 18 ウガンダ
- 19 ルワンダ
- 20 タンザニア
- 21 ザンビア
- 22 マラウイ
- 23 モザンビーク
- 24 マダガスカル
- 25 エスワティニ王国
- 26 パキスタン
- 27 ネパール
- 28 バングラデシュ
- 29 ミャンマー
- 30 カンボジア
- 31 東ティモール
- 32 パプアニューギニア



ウォーターエイドの水・衛生プロジェクト①

Timor-Leste 東ティモール



コミュニティの 主体的な 取り組みを サポート



東ティモールが抱える水・衛生の問題

2002年、隣国インドネシアからの独立を果たした東ティモール。長く続いた戦乱のため、インフラは壊滅状態に陥っていました。その後、基本的な公共サービスはかなり改善されたものの、現在も人口120万人のうち約35万人が安全な水を利用できず、約66万人が適切なトイレのない暮らしを送っています。

東ティモールは国土の約60%が山岳地帯に覆われた起伏の激しい国。そのためインフラの整備が困難で、遠隔地の農村に暮らす人々は毎日何時間もかけて遠くまで水をくみに行かなくてはなりません。水くみは主に女性や女の子の仕事。険しい山道を歩いて重い水を運ぶのは常に危険がつきまといます。やっとの思いでくんできた水も、決して安全とはいえません。また、適切なトイレがなく野外で用を足すしかない地域では、不衛生な環境が原因でコレラや下痢性疾患といった病気を後を絶ちません。

ウォーターエイドの水・衛生プロジェクト

こうした状況を改善するため、ウォーターエイドは2015～2018年の3年間、リキシャ県とマヌファヒ県の農村12か所で水・衛生プロジェクトを実施。1,300人余りの人々に清潔な水と適切な衛生環境を届けるために、パートナーと協力しながらコミュニティの主体的な取り組みを促し、現地事情に適した自然流下方式の給水設備の設置、その維持・管理を担う水利用者グループの結成、修理や利用料徴収方法の指導といった包括的なサポートを行いました。

また、コミュニティの人々に適切なトイレや正しい衛生習慣の重要性を認識してもらうため、各コミュニティで衛生促進ミーティングを開催。野外排せつによって環境や水・食料が汚染されるしくみを理解するとともに、正しい衛生習慣について学ぶことで、コミュニティの人々が自らトイレを設置し、健康を保つために衛生的な生活を維持しようというモチベーションを高めてもらうことを目指しました。

さらにこのプロジェクトでは、男女間の格差をなくすことにも重点的に取り組みました。水くみの仕事を担う女性の負担を軽減し、男女が協力しあって生活を営んでいけるよう、男女共同参加のセッションを開催して話し合いを重ねました。

人々の暮らしが大きく変化

2018年3月、このプロジェクトは3年間の実施期間が終了。当初の予定どおり、対象地域に住む人々に清潔な水と適切なトイレ、衛生習慣についてのメッセージを行き渡らせることができました。調査・計画といった初期段階からコミュニティの人々と一緒に取り組んできたことで、給水設備の運営やトイレの維持管理をコミュニティの人々が主体的に継続していけるようになっています。

各戸でトイレを設置し、自宅のそばで清潔な水が手に入るようになったコミュニティでは、健康で尊厳ある暮らしを営めるようになりました。女性は長時間の水くみの仕事から解放され、家族の世話をしたり、農業や手仕事で収入を得られるようになりつつあります。協議や意思決定の場でも自信を持って発言できるようになり、水利用者グループにも女性の代表が大勢参加しています。そして女の子たちが毎日歩くのは、もう水くみ場への道ではありません。学校への道、希望への道なのです。

アウレア・マンゴーさん(27歳)

アウレアさんが暮らすマヌファヒ県バザール・ファイティン村では、自然流下方式の給水設備が完成し、適切なトイレも全戸に設置されました。「もう夜に怖い思いをして外に用を足しに行かなくてもよくなりました。子供たちもトイレの使い方や石けんで手を洗う習慣を身に付けられます。3人の子供を抱えて家事や育児に追われるなか、遠くまで水くみに行くのは本当に大変でした。このプロジェクトでは、私も給水設備用の資材を運んだり役に立てたんですよ。子供たちは石けんで手を洗う方法を、歌やゲームを交えて楽しく教えてもらって大喜びです。」



ウォーターエイドの水・衛生プロジェクト②

India インド



住民が主体と
なって地下水の
フッ化物汚染に
対応する



飲料水が原因でフッ素症を発症する人々

インドは、経済成長がめざましい一方、カーストや民族などが原因で、開発から取り残されているコミュニティが依然として多く、そのような地域では水道などのインフラ整備が遅れています。ウォーターエイドが活動するオディシャ州のヌアパダ県もそうした地域のひとつ。それに加えて近年は、地下水の使用量が急増したことによる、地下水のフッ化物汚染が深刻化しています。

フッ化物で汚染された水を飲み続けるとフッ素症を発症し、歩行や立つことすら困難になったり、早期老化症、胃腸障害、視覚障害、精神障害などを患って、激しい痛みに長く苦しむこともあれば、早期の死に到ることもあります。こうした現実があるにもかかわらず、フッ化物汚染は住民や行政の間であまり知られておらず、住民たちは原因不明の健康被害が増えていることに不安を募らせていました。フッ化物汚染の影響は、健康被害だけではなく、生産性も低下するため、住民が貧困から抜け出すことが困難になります。

住民主体による地下水のフッ化物汚染対策プロジェクト

多くの人がフッ素症を発症している背景として、清潔な水が出る給水設備がないことがあります。インドでは本来、各村の村水衛生委員会が責任を持って村の給水サービスを運用・維持管理することになっています。もし給水サービスに不足や故障などの不備があれば、給水設備の新設・修復の計画を策定し、政府から予算を得て計画を実施するというしくみです。その過程では、住民と定期的に意見交換することも期待されています。

しかし、インドで今も清潔な飲料水を利用できない地域では、村水衛生委員会のしくみが機能していないことがよくあります。さらに、村水衛生委員会を管轄する県・州政府の水・衛生担当部署自体が、その地域で起きているフッ化物による地下水汚染や住民への影響について十分理解しておらず、対策を講じていないという問題もあります。

このような状況を踏まえて、ウォーターエイドは現地 NGO の Regional Centre for Development Cooperation と連携。まず村水衛生委員会の立ち上げ・強化に着手しました。続いて村水衛生委員会と住民が参加するワークショップを開催し、既存の給水設備の水質や季節ごとの水量、川やため池の分布などを洗い出したうえで、今後どこにどのような給水設備が必要か、どの給水設備の修復が必要かなどを議論。ウォーターエイドの技術的なアドバイスを受けながら、村水衛生委員会と住民らで村の給水設備整備計画を策定します。この計画をもとに、フッ化物汚染の影響を受けない手押しポンプ付き浅井戸（サニタリー井戸）や雨水貯留タンク、表流水を利用した給水設備などを、村水衛生委員会と住民が主体となって設置。それと並行して、このような給水設備の修理ができる人材を育成するトレーニングも実施しています。

さらにウォーターエイドは、県・州政府がフッ化物汚染の現状を理解し、適切な対策を講じられるように、県・村の水関連部署や保健関連部署を対象とした啓発ワークショップを開催。フッ化物汚染の原因や危険性、現状について意思決定機関がきちんと理解し、フッ化物対策に優先的に取り組むようになることを目指しています。



住民が主体となって解決するしくみ作り

ウォーターエイドはこのように、給水設備を設置するだけでなく、村水衛生委員会と住民が、自分たちで給水サービスに関する課題を見つけ、自分たちで課題解決の計画を立て、それを政府がサポートするという「しくみ」を作ることに注力しています。このしくみがきちんと機能すれば、外部からの支援がなくとも、住民が中心となって給水サービスを改善していくことができるのです。

ウォーターエイドの水・衛生プロジェクト③

Nepal ネパール



WaterAid/Mani Karmacharya

WaterAid/Mani Karmacharya

予防接種 の機会に 衛生教育

子供の命を脅かす下痢性疾患

ネパールでは、防げるはずの下痢性疾患で多くの幼い命が失われています。主な原因は、石けんで手を洗う、食品を衛生的に扱うといった衛生習慣が根付いていないこと。下痢を患うと体が食べ物の栄養を十分に吸収できないため、子供の低栄養もネパールでは深刻な問題です。

水・衛生の問題に取り組むなかで保健・栄養の問題にも配慮するという指針を打ち出しているウォーターエイドは、ネパールの予防接種制度が比較的うまくいっていることに着目し、子供を予防接種に連れてきた母親たちを対象とした衛生教育プロジェクトを立ち上げました。

定期予防接種時の衛生促進プロジェクト

ウォーターエイドの「定期予防接種時の衛生促進プロジェクト」は、2016～2017年にネパールの4つの郡で試験的に実施したもので、ネパール保健・人口省が主導、ウォーターエイドが技術面のサポートを行いました。生後9か月の間に5回ある定期予防接種のタイミングで、母親たちは5回のセッションに参加し、①石けんで手を洗う、②食品を衛生的に扱う、③トイレを使用し、子供の排せつ物を安全に処理する、④飲料水とミルクを安全に扱う、⑤母乳で育児をする、という5つの衛生習慣について学びました。

「Clean Family, Happy Family (清潔家族、幸せ家族)」キャンペーンとして実施されたこのプロジェクトは、知識を増やすことよりも、育児や助け合い、社会的立場の尊重といった部分で母親たちの気持ちに訴えかけることで、社会通念を変え、正しい衛生習慣を促進することに重点が置かれました。5回のセッションは、ウォーターエイドが開発した教材を使用して、トレーニングを受けたコミュニティ保健ボランティアが実施。試験期間の1年間で3万人以上が参加しました。

スウェアラ・クマリ・シンさん(44歳)

ジャージアルコート郡クシェ・ガウンパリカで、20年以上にわたって母子の健康をサポートしてきたコミュニティ保健ボランティア。ウォーターエイドの衛生促進プロジェクトでも、子供を予防接種に連れてきた母親たちに5つの衛生習慣を指導するという重要な役割を担いました。「以前は子供の栄養状態が悪く、下痢などで亡くなる子も大勢いましたが、母親たちが予防接種だけでは十分ではないと認識し、石けんで手を洗ったり、生後6か月まで母乳だけで育てたり、子供の排せつ物をきちんとトイレに捨てるようになってから、母子ともに健康状態が大きく改善しました」と言うスウェアラさん。「母親たちに正しい衛生習慣を教えてあげられるのは、私たちにとっても大きな喜びです。理論だけではなく、楽しい教材を使って指導できるので、参加者も増え、効果も上がっているのだと思います。」



WaterAid/Mani Karmacharya



WaterAid/Mani Karmacharya

プロジェクトの成果と今後

定期予防接種制度に衛生教育を組み込むというアプローチは世界初の試みであり、このプロジェクトではその実行可能性に加え、衛生習慣の改善効果、予防接種の効果向上、コスト、実施規模拡大の可能性について評価を行いました。その結果、いずれについても望ましい成果が得られており、5つの衛生習慣に関しては、プロジェクト開始前に実践していた家庭がわずか2%だったのに対し、プロジェクト終了後は1年経過した時点でも53%の家庭が継続的に実践していることが確認できました。さらに、予防接種を受ける人数の増加、ワクチン廃棄量の減少、下痢発生率の減少といった効果も表れており、子供の栄養状態も改善が期待されています。

現在、予防接種制度に衛生教育を組み込むという取り組みは、この試験的プロジェクトの成功を受けて、拡大フェーズに入っています。今後は今回のプロジェクトを指針として、全国レベル、さらには世界レベルへの拡大を模索していきます。



ウォーターエイドのグローバルキャンペーン ヘルシー・スタート

ウォーターエイドは2015年から、「ヘルシー・スタート」と題し、新生児や子供たちの健康・栄養状態の改善に焦点を当てた水・衛生プロジェクトとアドボカシーを実施しています。保健・栄養関連の政策やプログラムに清潔な水や適切なトイレ、衛生習慣を取り入れることの重要性を提言したり、政府の保健・栄養政策に水・衛生改善の施策を組み込むプロセスを支援しているほか、実際に保健・栄養に水・衛生を統合したプロジェクトを各国の諸地域で実施しています。



栄養に配慮した水・衛生プロジェクトの実施指針を策定

2017年3月、ウォーターエイドは、栄養に配慮した水・衛生プロジェクトの実施指針を策定しました。この指針では、栄養改善のプロジェクトが進められている地域を対象として水・衛生プロジェクトを実施することで栄養と水・衛生の相乗効果を生み出すこと、水・衛生プロジェクトの一環として実施するトイレや手洗いの啓発活動に栄養に関する内容も組み込むことなどが定められています。

各国政府の栄養に関する政策、 水・衛生に関する政策の統合度を分析したレポート発表

2017年8月、ウォーターエイドは「Recipe for Success (成功のためのレシピ)」と題したレポートを発表。栄養改善のために水・衛生が不可欠であることを、数値をもって示しました。また、アジア・アフリカの10か国について、政策や計画における栄養と水・衛生の統合度合いも分析。その結果、栄養関連の政策・計画には水・衛生の組み込みが進んでいる一方、水・衛生関連の政策には栄養に関する内容が十分に組み込まれていないことが明らかになりました。



ヘルシースタート～各国の事例



マラウイ

変化を促すボトムアップとトップダウンのアプローチ

ウォーターエイド・マラウイは、保健医療施設に水・衛生設備を設置するという直接的な方法のほかに、2つのアプローチを並行して実施しました。1つは地域住民を主体とした「ボトムアップ」のアプローチ。もう1つは「トップダウン」の変化を促すアプローチです。

まずボトムアップのアプローチとして、地域住民が自分たちの権利をしっかりと理解し、その権利を主張できるようにするために、パートナーと協力しながらさまざまな取り組みを実施。コミュニティのリーダーを集めてセッションを開催し、保健医療施設で水・衛生を利用する権利や、そうした問題を責任ある立場の人々に訴えかける方法について話し合いました。

また、地域住民と意思決定者が活発に意見を交わせるしくみも構築。「市民フォーラム」では地域住民らが議員に対して、自分たちの声が反映されていない、開発資金が適正に使われていない、保健医療施設の水・衛生改善措置が講じられていないといったことについての責任を追及しました。これに対し、最初は防御姿勢を見せていた議員も、話し合いを進めるなかで批判を受け入れ、対策を講じることを約束しました。

さらにトップダウンのアプローチとして、ウォーターエイドは厚生省をはじめ、医療・保健関連の委員会や作業部会と関係を構築。保健政策について発言できる立場を確保し、さまざまなセクターをまたいで関係諸機関に行動を促す役目を果たしています。

このように、地域住民が水・衛生サービスを提供する立場にある人々の責任を問えるようサポートするとともに、意思決定を行う人々に働きかけることで、政府がリーダーシップをとって対策を講じ、地域住民の声を政策に反映し、人々の暮らしを大きく改善することが可能です。



合同議員委員会と住民の会合で、コミュニティを代表してスピーチする
パーサ・ムウェールさん(マラウイ・カスング県)

インド

コミュニティの関与を深め、政府を動かすキャンペーン

インドでは2014年からモディ首相のもとで「クリーン・インディア」政策が進められていますが、ウォーターエイドが保健医療施設426件で行ったアセスメントの結果、水・衛生の状態が極めて悪い施設がまだ数多くあることが明らかになりました。そこで、ウォーターエイドは2016年、「クリーン・インディア」政策に沿ったかたちで、「ヘルシースタート」キャンペーンを開始。母子の死亡率を低下させるため、保健医療施設の水・衛生問題への集中的取り組みを呼びかけました。

このキャンペーンの目的は、保健分野で意思決定を行う人々の意識を変えること、医療の質を高めるには水・衛生が不可欠という認識を社会に広めること、そして予防医療より治療が重視されている現状に異を唱えること。5つの州で開催されたキャンペーン開始イベントには、インド保健・家族福祉大臣や議員、官僚、一般の人々など大勢が参加し、メディアでも大きく取り上げられました。

このキャンペーンを展開するなかで、ウォーターエイドはコミュニティや医療関係者と協力しながら、医療分野の衛生に関わる清掃員などの人たちが社会的に認められ、自信を持って働けるよう尽力しているほか、保健医療施設の利用者や介護者、病院管理委員会、地域住民の代表者、コミュニティの人々などが保健医療施設の水・衛生の状態を監視できるしくみづくりも行っています。

また、保健大臣への嘆願書に8万人以上の署名を集めたり、ソーシャルメディアを利用したキャンペーンで若者たちに訴えかけるといった活動も展開。こうした活動によって、クリーン・インディア政策の責任者らが保健医療施設における水・衛生のアセスメントを実施したり、その結果を受けて改善計画を策定するなど、責任ある人々がしっかりと責任を果たす動きが生まれています。



日本の活動 情報配信

ウォーターエイドは、水・衛生専門のNGOとして、
開発途上国の水・衛生に関する情報の発信に力を入れています。

スピーカークラブ

2014年から取り組みを始めた「ウォーターエイド・スピーカークラブ」は、子供から大人まで、より多くの日本の人々に、途上国の水・衛生の状況やウォーターエイドの活動に関心を持っていただくことを目的として活動するクラブです。ウォーターエイドが実施する1日の「スピーカー講習会」を受けて「スピーカー」になった皆さんが、ウォーターエイドのオリジナル教材・授業案を使用して、学校やイベントなどの場で授業を実施しています。2016年以降、パナソニックのNPOサポートファンドの支援を受けながら、より自立したクラブとなっていくことを目指しています。2017年度は新たに34名がスピーカーに加わった

ほか、スピーカーが主体となって「スピーカー講習会」を運営できるようしくみ作りに取り組みしました。

現在、東京都のオリンピック・パラリンピック教育資料集、スカイ学校支援ネットワークセンターのスカイプログラムにもスピーカークラブによる授業が掲載されており、学校からの依頼を受けて、ウォーターエイドのスタッフとスピーカーメンバーが連携しながら出前授業を行っています。2017年度は東京都、神奈川県などの合計8校で出前授業を実施しました。



スピーカー講習会が終わり、認定書を手に記念撮影

スピーカークラブ 安藤 薫さん

私とウォーターエイドとの出会いは、3年前のスピーカー講習会でした。盛りだくさんの内容で、1日で理解するのは大変でしたが、多くの人にトイレや水についてもっと関心をもってもらいたい、そのために自分にも何かできることがあるかもしれない、という気持ちになったことを覚えています。その後、スピーカーとしてイベント等に参加しています。イベントの参加者はトイレや水の問題に関心があるという共通点から、すぐに打ち解けることが多い一方、参加者の性別、年齢、職業、経験、参加動機などは様々なので、自分が予想しないような見方が出されることもあり、とても勉強になっています。日本に住む私たちにとって、トイレや水はあってあたりまえですが、世界を見れば日本のような地域が稀であることがわかります。日本のあたりまえが世界のあたりまえに少しでも近づいていくことを期待しながら、今後もウォーターエイドの活動に携わっていきたいと思います。

主な メディア掲載

- 2017年度、ウォーターエイドジャパンは下記メディアに掲載されました。
- 7月 『建築コスト情報』に記事「水とトイレ・衛生をセットで備える」掲載
 - 11月 雑誌『fine』にH & Mとの連携についての記事掲載
 - 11月 土木学会誌に対談記事掲載
 - 2月 「なんとかしなきゃ！プロジェクト」にインタビュー記事掲載
 - 3月 JCOM「デイリーニュース」で墨田区水循環講座について放映

墨田区水の循環講座

ウォーターエイドジャパンが事務所を置く墨田区は、雨水活用が活発に行われるなど、行政や市民の間で水への関心が高い地域です。ウォーターエイドジャパンは2016年度に続いて2017年度も、墨田区から委託を受けて「墨田区水の循環講座」の企画運営を担当しました。全6回のうち第1回から5回までは、毎回「食」「山」「地形」などのテーマを設定。それぞれのテーマで日本国内のこと、世界のことを考え、自分たちの生活は水を通して海外とつながっているのだと実感していただくことを目指しました。最終回となる第6回は「水に関する授業を体験する」をテーマに、ウォーターエイドジャパンのスピーカーだけでなく、ウォーターエイドジャパンが授業支援を行っている静岡県立三島北高校の生徒さんたちもオリジナル授業を実施。約70名の参加者の皆さんに、この授業を体験して水に関する関心を高めていただくことができました。



奥多摩水源林の視察

【講義内容】

- 第1回 地形と水「墨田区に注ぐ湧き水の観察と台地地形を体感しよう！」
- 第2回 都市と水「海拔0メートル地帯の水運の歴史を見てみよう！」
- 第3回 山と水「奥多摩の水源林を見に行こう！」
- 第4回 食と水「墨田区名物、相撲部屋のちゃんこ鍋の水マップをつくろう！」
- 第5回 リサイクルと水「ライオン千葉工場の排水リサイクルを見てみよう！」
- 第6回 水の授業「すみだと世界の水循環について考える授業を体験しよう！」

墨田区 都市整備部 環境担当 環境保全課 主任 谷田辺 陽介さん

隅田川と荒川の二つの河川に抱かれ豊かな「水」に恵まれた墨田区から、水環境を将来に渡り守って行くとともに広く発信することを目的に「水の循環講座」を企画し、ウォーターエイドジャパンに運営協力をお願いしました。「水」について、様々な視点から楽しく学べる企画はもちろん、世界で活躍されているスタッフの皆さんの人柄と経験もあり、初めて学ぶ参加者にも「わかりやすく・興味を引き付ける」企画を実施していただきました。全ての参加者にとって世界・日本・東京・墨田のつながりを深く考える機会になり、世界と日本の水事情をより身近に感じることで、限られた「水」の大切さを改めて認識していただけたと確信しています。

静岡県立三島北高校との連携

文部科学省が指定する「スーパーグローバルハイスクール」として水問題の研究に取り組む静岡県立三島北高校で、ウォーターエイドジャパンは2016年度から授業支援を行っています。2017年度は、カンボジアの水・衛生問題を研究する生徒さんたちのグループワークをサポートし、現地の課題を踏まえたアドバイスをを行いました。1年生のときから水について研究し、水への関心が高い三島北高校との連携は、授業支援だけでなくとどまりません。2017年度は、16人の生徒さんが講習を受けてウォーターエイドスピーカーに加わりました。11人の「高校生スピーカー」は、10月にウォーターエイド主催のイベント「三島北高校の生徒と一緒に世界の水について考えるワークショップ」で、水に関する



墨田区水の循環講座で講師役を務める三島北高校の生徒たち

授業を三島市内外の大人向けに披露したほか、3月に開催された墨田区の水循環講座でも、自分たちで考えたオリジナル授業を実施。多くの方々の新しい気づきをお手伝いしました。

世界水の日・世界トイレの日

11月19日の「世界トイレの日」と3月22日の「世界水の日」は、いずれも国連から認められた正式な「国連デー」であり、ウォーターエイドが水・衛生の重要性を発信する大切な機会でもあります。2017年度の世界トイレの日は「もしもトイレがなかったら～世界のトイレ問題を学ぶ～」と題したイベントを開催。ほかにも2016年度に続いて「うんち川柳」を募集し、全国から力のこもった合計209句が寄せられました。

世界水の日には、ウォーターエイドがグローバルに取り組んでいる、世界を青く染めるキャンペーン「#Blue4Water」を展開。本キャンペーンに賛同し、日本国内では右記の諸企業・施設が建物のライトアップにご協力くださいました。



©Tokyo Big Sight Inc.

Blue4Waterに賛同し、青色に染まる東京ビッグサイト

- ☐ さっぽろテレビ塔
- ☐ 東北電力岩手支店 無線マイク鉄塔
- ☐ 東京ビッグサイト
- ☐ アサヒグループ本社ビル
- ☐ 神戸ポートタワー
- ☐ モザイク大観覧車
- ☐ 別府タワー

日本の活動 アドボカシー



ウォーターエイドは、政府などの機関が政策を変えることによって、個々のコミュニティにアプローチするよりはるかに多くの人々に水と衛生を届けことができ、支援の効果が大きいという考えに立ち、政府・諸機関の意思決定に影響を与えられるよう働きかけを行っています。

国の発展と人々の健康を実現するには、水と衛生が極めて重要です。その根拠を実証するため、ウォーターエイドは調査データを収集し、現地レベル、国家レベル、あるいは国際レベルで意思決定を行う諸機関に、この情報を提示しています。

水と衛生の危機的現実が最優先課題として国際社会から認識されるよう、国際的な会合やイベントの場でも、積極的に水・衛生の重要性を提言しています。

アフリカ開発会議(TICAD)閣僚会合

2017年8月、モザンビークの首都マプトで、TICAD閣僚会合が開催されました。ウォーターエイドは、TICADに向けたアドボカシーに取り組む「市民ネットワーク for TICAD」の一員として、この閣僚会合に参加。アフリカ開発における水・衛生の重要性について発信しました。



TICAD閣僚会合に参加した
市民ネットワーク for TICADの世話人とアフリカの市民社会

食と栄養のアフリカ・イニシアチブ(IFNA)

2016年のTICAD VI開催にあたって国際協力機構(JICA)が立ち上げたIFNAは、アフリカ各国と支援機関の連携強化を通して現場での具体的な取り組みを推進し、栄養改善に向けた目標の達成を支援するという取り組みです。ウォーターエイドは、2017年5月にエチオピアの首都アディスアベバで開催されたIFNAパートナー会合に参加。また、IFNAの戦略策定に向けて対象国ごとに行われた調査・会合にも、モザンビークなど複数のウォーターエイド活動国からスタッフが出席し、アフリカの栄養改善における水・衛生の重要性を提言しました。

JICAの栄養に関する研修で講師を担当

ウォーターエイドは、栄養分野における水・衛生の問題にも積極的に取り組んでいます。この取り組みが評価され、11月6日～10日に行われたJICAの能力強化研修「栄養改善人材養成(マルチセクトラルアプローチに向けて)」では、ウォーターエイドが「居住環境と保健サービスへのアクセス」セッションの講師を務めさせていただきました。



JICAの研修で講師を務める
WaterAid UK アドボカシー・コーディネーター Dan Jones

企業との連携

ウォーターエイドを支えてくださった皆さま

2017年度、ウォーターエイドは皆さまとともに、水とトイレ、衛生習慣を届けることによって、多くの人々の生活を変えることができました。皆さまの温かいご協力で心より感謝いたします。

- アビームコンサルティング株式会社
- 株式会社エルビー
- 花王株式会社
- 花王ハートポケット倶楽部
- 一般財団法人財団せせらぎ
- 損保ジャパン日本興亜「SOMPOちきゅう倶楽部」
- 東京海上日動火災保険 Share Happiness 倶楽部
- TOTO株式会社
- 株式会社ナック クリクラ事業部
- 株式会社ハリカ
- パナソニック株式会社
- BSIグループジャパン株式会社
- 八千代エンジニアリング株式会社
- 株式会社LIXIL
- リコー社会貢献クラブ Free・Will
- 墨田区

八千代エンジニアリング ▶▶▶ Water Innovatorsに参加

ウォーターエイドの主催でグローバルに展開している「Water Innovators」は、人材育成と社員参加型の社会貢献を組み合わせたプログラム。途上国に実在する課題を解決するために、企業からエントリーしたチームが解決策の立案と募金活動を行い、世界各国の参加チームと競い合います。2017年度、ニカラグアの水・衛生がテーマとなったこのプログラムに、八千代エンジニアリング株式会社のチームが日本から初参加してくださいました。同社の強みを活かし、地質、地盤、環境、河川、機械、まちづくりの専門技術者でチームを構成。現地の特性や社会情勢を踏まえてご提案いただいた革新的な解決策に対し、ウォーターエイドより Best Innovation 賞を贈らせていただきました。



エルビー ▶▶▶ 飲料パッケージでウォーターエイドを応援

チルド飲料やパック飲料を製造・販売する株式会社エルビーが、ウォーターエイドの活動にご寄付くださいました。それに加えて、2018年3月よりリニューアル新発売された「大人の紅茶 トリプルゼロ アップルティー」「大人の紅茶 トリプルゼロ レモンティー」のパッケージ側面に、ウォーターエイドの活動紹介を掲載してくださいました。同商品はコンビニエンスストアやスーパーなどで販売されており、多くの方にウォーターエイドの名前を知っていただくきっかけとなっています。



©株式会社エルビー

ハリカ ▶▶▶ 「チョイスカタログ」のメニューにウォーターエイド・チャリティギフト

ギフトの専門商社であるハリカは、2018年2月より販売しているカタログギフト「チョイス&チョイス」のなかで、「ウォーターエイドジャパン チャリティギフト」と題したウォーターエイドへの寄付をメニューに加えてくださいました。

アビームコンサルティング ▶▶▶ ご寄付に加えて、本業を生かしたご支援

2013年より毎年、ネパール、エチオピア、東ティモールなどの水・衛生プロジェクトにご寄付をいただいています。2017年度はインドのプロジェクトへのご寄付に加え、社員3名の方が、実際のプロジェクトについて理解を深めるために、インドまで視察にお越しくださいました。また、同社の本業であるコンサルティングを通じて、スピーカークラブの運営に関するアドバイスもいただいています。



2017年度会計報告

活動計算書

収益		費用	
受取会費	60,000	事業費	
受取寄付金	21,877,264	広報・開発教育	9,734,461
受取助成金	5,690,000	アドボカシー	1,850,118
事業収益	5,125,888	水・衛生事業 / 募金	15,216,195
その他収益	208,480	管理費	5,185,075
合計	32,961,632	法人税等	70,000
		合計	32,055,849

貸借対照表

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金預金	5,126,610	未払金	1,552,235
未収収益	1,642,411	預り金	455,057
仮払金	123,093	未払法人税等	70,000
固定資産		負債合計	2,077,292
ソフトウェア	24,990		
保証金	840,000		
資産合計	7,757,104		
		正味財産の部	
		前期繰越正味財産	4,774,029
		当期正味財産増減額	905,783
		正味財産合計	5,679,812
		負債及び正味財産合計	7,757,104

ウォーターエイドジャパンは、2017年度の会計等について以下の監査を受けています。

- 監事による業務および会計の監査
- 高野寛之公認会計士事務所による財務諸表の監査

ウォーターエイドジャパンについて

ウォーターエイドは、2012年より日本法人設立の準備を開始。2013年2月に、ウォーターエイドジャパンとして、東京都より特定非営利活動法人(NPO 法人)の認証を受けて、法人としての歩みを始めました。ウォーターエイドが日本法人を立ち上げた理由の1つに、日本は水と衛生分野において、世界で最大の援助供与国であることが挙げられます。世界の水・衛生の改善に大きな役割を果たしてきた日本から、水・衛生の重要性について発信していく必要がある—そう考えて日本法人を立ち上げました。

概要

- 法人設立:2013年2月15日
- 認定NPO 法人認定:2014年12月19日
- ＊ウォーターエイドジャパンにご寄付をいただく個人・法人の皆さまは、税制優遇を受けていただくことが可能です。
- 常勤職員数:3名

活動

- 世界の水・衛生問題について関心喚起をするための情報発信
- 世界の水・衛生問題に関するアドボカシー・政策提言
- 途上国における井戸建設、トイレ建設、衛生教育などの水・衛生事業、およびそのための募金活動

ウォーターエイドジャパン 役員

理事長 小寺 清 元世銀・IMF 合同開発委員会事務局長、元国際協力機構(JICA) 理事	理 事 橋本 淳司 ジャーナリスト／アクアスフィア代表
理 事 赤羽 真紀子 CSR アジア日本代表	理 事 安江 真理子 株式会社電通 電通総研 プランニング・ディレクター
理 事 滝沢 智 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授	監 事 和仁 亮裕 モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所 ／伊藤 見富法律事務所 弁護士
理 事 玉井 孝明 前東京海上ホールディングス株式会社常勤監査役	(2018年7月20日現在)

ウォーターエイドの活動を支えているのは、皆さまからのご支援です。

毎月の寄付「オアシスギフト」

毎月、ご指定の金融機関またはクレジットカードから、一定額を継続してご寄付いただくことによって、途上国の人々に清潔な水と適切なトイレを届けるための活動を長期的に支えていただくご支援のしくみです。オアシスギフトにご参加いただきました方には、ニュースレター「Oasis」(年2回発行)や年次報告書をお送りします。

初めてウォーターエイドジャパンへご寄付いただく方で、郵便局の払込取扱票以外でお振込いただく場合は、お名前、ご住所をお知らせください。ご連絡のない場合は、領収書をお送りすることができませんので、ご了承ください。

■郵便振替によるご寄付

口座番号 00100-0-359375
加入者名 ウォーターエイドジャパン

■その他の金融機関からのご寄付

ゆうちょ銀行 〇〇八(ゼロゼロハチ)店
普通 4057566
特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン

■クレジットカードでのご寄付

毎月のご寄付(オアシスギフト)、単発のご寄付がお選びいただけます。
<https://www.wateraid.org/jp/get-involved/donation>



特定非営利活動法人
ウォーターエイドジャパン(認定NPO)

〒130-0026 東京都墨田区両国2-10-6 ローレンス・ノダ301

Tel: 03-6240-2772 / Fax: 050-3488-2040

www.wateraid.org/jp

 /WaterAidJapan  /WaterAidJapan

 **WaterAid**